

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 佐藤 麻理絵

平成 23 年度 (入学)・編入)

1. 研究課題:

現代中東における国家と超域性; 難民ホスト国ヨルダンを事例として

2. 派遣期間:

2011 年 7 月 7 日 ~ 2011 年 10 月 2 日 (88 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

東アラブ諸国に位置し、イスラーム世界の一つであるヨルダン（アンマン市内）を中心にイラク人難民について調査を行った。生存基盤及び難民に関する単語の収集を行うと共に、イラク人難民の分布や生活状況等について国際機関の職員と彼ら自身から話を聞くことが出来た。2011 年 9 月時点で、ヨルダン国内において UNHCR に登録されているイラク人の人数は合計 33,320 人で、その内 32,151 人は難民登録者、1160 人が亡命要求者 (Asylum Seekers) とされるが、滞在許可を得るのは難しく、合法的な就業許可も下りていないケースがほとんどであった。滞在許可も仕事も持たず、UNHCR のわずかな資金援助に頼る生活を余儀なくされている未亡人や母子家庭の現状があり、援助に頼るしかない状況を生み出している。第三国定住を希望して応募したにもかかわらず、決定権は定住先の政府が持つため、許可が下りないケースも多いことが分かった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回はヨルダン大学に設置されている戦略研究所 (Center for Strategic Studies) でのインターンの機会を得て、図書館の利用や調査の補助等に大変役立った。今後も、研究所等のサポートを得ることで自身の研究および現地調査をより充実させたものとする事が出来るように、現地先々の大学や機関に問い合わせる交渉を行いたい。GPS や GIS の利用や、アンケート調査のために事前準備をしっかりと行うこと、結果の解析のため統計学や計量経済学の分野の理解をより深めることを課題とし、信用に足るデータの収集と分析の習得に活かしたい。中東諸国は革命やその後のデモで不安定な状況が続いているため、行く時期や場所を精査して、現地調査に臨みたい。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

地域研究にとってフィールド調査は欠かせないもので、現地でのインターンシップ経験は各人のスキルアップや将来設計に大きな役割を担うと考える。額の大小に関わらず支援を頂けるのは大変心強く、役に立った。

現地で短期・長期調査のため、渡航費やある程度の現地滞在費の補助があるプログラムがあれば是非参加したい。現地語学習得のための短期のプログラムが開講されれば是非参加したい。

署名